

2019 年度
事業計画書

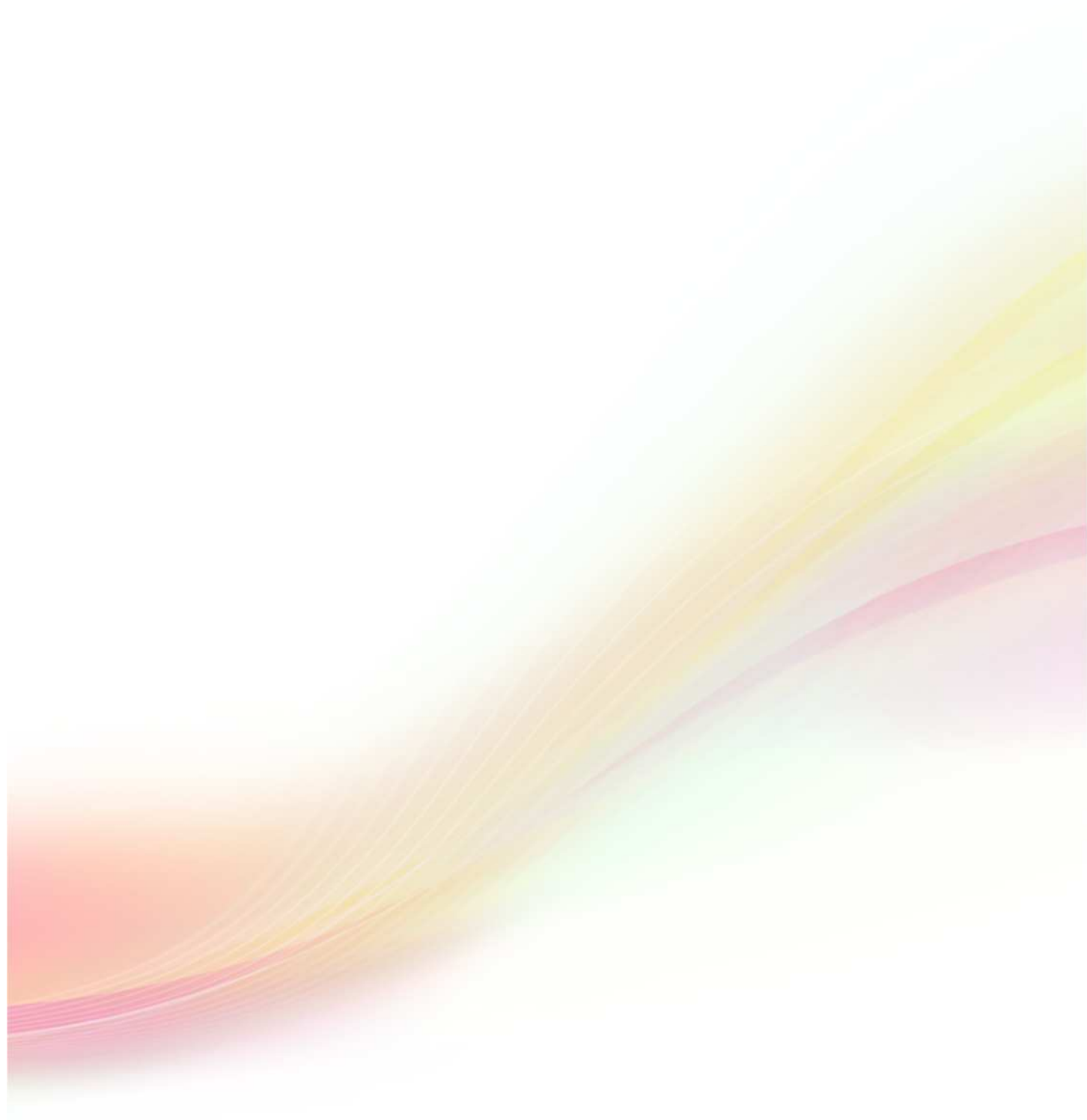
2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日



定山溪森のようちえん（定山溪自然の村）



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会



目 次

I	経営理念	1
II	基本方針	1
III	事業計画策定の基本方針	1～2
	1 時代のニーズに対応した事業内容の再構築	
	2 他部門・他団体との業務連携等の推進	
	3 既存業務のシステム化の推進	
	4 事業展開における未来ビジョンの設計	
	5 部門別事業収支の適正化	
IV	事業概要	3～4
	1 青少年の健全育成と社会参加に関する事業	
	2 社会教育の推進に関する事業	
	3 市民活動の振興に関する事業	
	4 その他法人の目的を達成するために必要な事業	
V	部門別事業計画書	5
	1 こども事業課・こども育成課（児童会館・ミニ児童会館）	〈 5～ 6〉
	2 こども劇場課（やまびこ座・こぐま座）	〈 7～ 8〉
	3 若者支援事業課（若者支援施設）	〈 9～10〉
	4 企画事業課（滝野自然学園・イベント事業）	〈11～14〉
	5 野外活動課（北方自然教育園・定山溪自然の村・青少年山の家）	〈15～20〉
	6 市民参画課（札幌エルプラザ公共4施設）	〈21～23〉
VI	施設一覧	24
VII	機構図	25

2019年度 事業計画

I 経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

青少年の健全育成と青少年女性の社会参加、地域社会創造のための主体的な活動支援を人とのつながりを通して行うことで、地域社会の発展と向上を図り、豊かな生活の実現に寄与します。

II 基本方針

1. 青少年の健全育成と社会参加の実現に寄与する
2. 市民活動の振興及び社会教育の推進に寄与する
3. 将来を見据えた組織力の強化を図る
4. 自主事業の拡大を図り、自主財源の確保により安定した法人経営を行う
5. 組織の活性化・効率化に向けた改革を行う

III 事業計画策定の基本方針

1. 時代のニーズに対応した事業内容の再構築
2. 他部門・他団体との業務連携等の推進
3. 既存業務のシステム化の推進
4. 事業展開における未来ビジョンの設計
5. 部門別事業収支の適正化

Ⅲ 事業計画策定の基本方針 <内容>

(1) 時代のニーズに対応した事業内容の再構築

財団がさらなる成長を遂げ存続していくためには、様々な課題をいち早く察知し、多くの社会的課題の解決に繋がる事業を提供して、社会から必要とされる存在であり続けることが重要となるが、社会環境や価値観が急速に変化する現状にあつては、財団の実施する様々な事業においても、この変化に対するためめね努力が必要となる。当財団の目的を達成するため、各事業部門における事業実施の方法等を必要に応じて見直すなど、昨年度に引き続き、変化するニーズに対応した事業内容へと再構築を図る。

(2) 他部門・他団体との業務連携等の推進

現行事業の更なる充実や社会的課題解決のための各種事業の積極展開を行うにあたっては、多様なニーズに対応するための各種情報収集や業務連携による事業効果を最大化し、各部門が実施する事業に関心を持つ対象を広げることも必要となる。

現行の事業実施方法に過度に拘らず、財団内部の他の事業部門及び他団体等との情報交換や業務連携の推進・協同範囲の更なる拡大を積極的に検討し、昨年度同様、これらの具体的な取り組みを行うことを念頭に置いた事業計画を策定すること。

(3) 既存業務のシステム化の推進

働き方改革関連法施行に伴う長時間労働の是正や昨今の雇用情勢による職員確保の困難さが増す現状は、これまで時間外勤務や職員の増員等によって対応してきた各種事業において、これらの実施方法を見直す必要性に迫られている。各課事業に付帯する受付業務や事務的作業など、既存の定型・定例業務に費やす人員や時間は常に一定の数量が存在するが、人との関わりを大切にしたい事業展開を行う当財団事業にあつて、この時間を十分に確保するためには、定型・定例業務の作業方法を再検討して省力化や簡略化に繋がる取り組みを行うことが、これからの課題に対応するためにも重要となる。定型業務や定例事務にかかる時間の減少を目的とした業務フローの見直しや通信技術を活用したシステムやツール等の導入を検討するなど、既存業務の作業時間短縮や省力化に繋がる取り組みを積極的に検討すること。

(4) 事業展開における未来ビジョンの設計

翌期となる 2020 年度は、当財団の設立から 40 周年を迎える年度となるが、職員数 15 名の設立当初から現在の職員数・事業規模へと拡大したことは、当財団の事業が時代の変遷の影響も受け大きく発展したものである。今後、当財団の設立趣旨や目的を大切に守りつつ、多くの先輩職員が築いた財団事業の実績を継承しさらに発展させていくためには、各種事業における「将来のありたい形」を検討し、その将来像に向かって中長期的に取り組むことが必要となる。創立 40 周年を目前とした 2019 年度は、各課事業の未来ビジョンを現行職員で設計し、次年度（2020 年度）から取り組む中期的な方向性について、職員間の共有を図るなど具体的な取り組みを行うこと。

(5) 部門別事業収支の適正化

公益財団法人として求められる「財政基盤の明確化」や「財務管理の適正性」は、公益認定法に定められた経理的基礎の主要な要素である。当財団事業の多数を占める指定管理事業は、現行の契約期間における事業収益等の今後の推移が概ね見込める現状にあり、事業実施にあたっては、各事業収益に見合う人員配置、費用をもって事業運営を行うことが必要となる。効率的で効果的な事業運営を意識した事業計画の作成と契約期間の収支バランスを意識した事業収支の適正化を図ること。

IV 事業概要

- 【定款第4条】 (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
(2) 社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

子ども育成事業

(1) 青少年活動支援事業

- ・放課後児童クラブ事業
- ・学習活動事業
- ・各種講座、講習会
- ・劇団育成支援事業
- ・インターンシップ、各種実習の受け入れ

(2) 体験機会創出事業

- ・社会奉仕活動事業
- ・各団体との共同開催事業
- ・子どもの体験活動機会を創出する事業

(3) 施設管理運営事業

- ・児童会館の管理業務、貸室等
- ・こども劇場の管理業務、貸室等

若者自立支援事業

(1) 体験機会創出事業

- ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
- ・交流促進事業
- ・ボランティア参加事業 等

(2) 受託事業

- ・若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等

(3) 調査研究事業

- ・社会的自立に関する調査・研究事業

(4) 施設管理運営事業

- ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

自然体験活動事業

(1) 滝野自然学園事業

- ・体験機会創出事業
- ・職員派遣事業
- ・情報発信事業
- ・団体支援事業
- ・施設管理運営事業

(2) 北方自然教育園事業

- ・体験機会創出事業
- ・施設管理運営事業

(3) 定山溪自然の村事業

- ・体験機会創出事業
- ・施設管理運営事業

(4) 青少年山の家事業

- ・体験機会創出事業
- ・施設管理運営事業



【定款第4条】 （3）市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

- | | | |
|------------|------------------|-------------|
| (1) 活動支援事業 | ・ 男女共同参画啓発事業 | ・ 市民活動関連事業 |
| | ・ NPO活動支援事業 | ・ 相談 ・ 支援事業 |
| (2) 職員派遣事業 | ・ 大学、専門学校他への職員派遣 | |
| (3) 情報発信事業 | ・ 各種情報誌の発行事業 | |

【定款第4条】 （4）その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・ 民間企業等から受託したイベント企画運営等事業
- ・ 物品貸与等事業



他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、
公益目的外での施設貸与事業

- ・ 札幌エルプラザ公共4施設、定山溪自然の村、青少年山の家管理運営
- ・ こども劇場、若者支援施設における公益目的外での施設貸与事業



V 部門別事業計画書

こども事業課・こども育成課

児童会館・ミニ児童会館

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

事業方針

すべての子どもの笑顔があふれる活動拠点を地域とともにつくります

重点目標

地域活動等事業

①多様性を認め合い、子どもたちが自分らしく過ごせる居場所づくりを進める。

②主体性を活かしたあそびや体験をとおして子どもたちの未来の可能性を広げる。

③地域・関連機関・保護者等と連携し、子どもたちの心身の育ちの場を広げる。

④学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「遊学舎まなべ」）
生活困窮世帯の中学生を対象に、学習支援活動により高校進学を促進する。併せて、若者支援事業課と連携し、中学校卒業後の支援に向けた取り組みについて推進する。

⑤子どものくらし支援コーディネート事業
困難を抱えている子どもや家庭を早期に発見し必要な支援につなげるコーディネーターを配置し、子どものくらしを支える相談支援体制の充実を図る。

施設運営等事業

こども事業課

こども育成課

①各種企業・団体との連携体制の強化

②財団内他部門との連携強化

③各種活動・事業のエビデンスづくり

①利用満足度の向上を意識した事業運営

②緊急時における安心・安全な施設運営体制の確立及び危機管理意識の向上

数値目標

【共通目標】

①利用者総数（こども育成課）

2019 年度

4,020,000 人

2018 年度

4,020,000 人(見込)

②事業プログラム参加者総数
(こども事業課)

2019 年度

1,180 人

2018 年度

496 人(見込)

(こども育成課)

2019 年度

900,000 人

2018 年度

890,000 人(見込)

③利用者アンケートにおける満足度（こども育成課）

2019 年度

80%

2018 年度

実施予定（3 月）

【部門目標】

①（こども事業課）各種企業・団体等、新規関連ネットワーク団体との連携

2019 年度

新規 5 団体

2018 年度

新規 3 団体(見込)

②（こども育成課）地域連携事業の実施

2019 年度

5 回以上/年（1 館）
1,000 回/年（全館）

2018 年度

5 回以上/年（1 館）
1,015 回/年（全館）

事業内容	時期・回数
<p>1 青少年活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ事業 ・学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「遊學舎まなべえ」） ・子どものくらし支援コーディネート事業 ・子育てサロン事業 ・中・高校生夜間利用等運営事業「ふりーたいむ」 ・児童会館実習指導業務 ・学習活動（学習レシピの活用等） ・子ども運営委員会（全館統一事業） ・若者支援施設との連携事業 ・調査・研究事業 他 	<p>※実施時期・回数については各会館により異なるため省略</p>
<p>2 体験機会創出事業</p> <p>NEW</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中島児童会館 70 周年記念特別事業 ・体験機会フォロー事業 ・興味・関心創出事業 ・社会参加・貢献啓発事業 ・講習会・発表会（各種講座・クラブ活動発表会等） ・鑑賞会（人形劇、読み聞かせ、映画、ビデオ上映等） ・社会奉仕活動（ごみゼロ大作戦、施設訪問、防犯・防火活動等） ・交流事業（子育てサロン、世代間・地域交流、お泊り会等） ・リーダー育成事業 ・季節行事・パーティー（歳時事業、お祭り等） ・野外・自然体験活動（キャンプ事業、畑づくり、遠足等） ・伝統芸能活動（伝承あそび、生け花、茶道・将棋・華道教室等） ・体力増進・スポーツ（日常あそび、外遊び、一輪車等） ・創作活動 ・読書活動 ・環境活動 ・合同事業 ・外部連携事業 ・NPOとの連携事業 ・周年行事 	
<p>3 施設管理運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会館の管理運営、貸室事業、危機管理事業等 	



事業方針

「未来ある子どもたちの夢をはぐくむ劇場づくり」

こぐま座と併設する中島児童会館の 70 周年の節目をとらえた記念事業を大々的に実施することにより、全国的にも珍しい子どものあそび、文化に関する総合施設として、その存在意義を周知し、札幌の子ども文化の発展へとつなげていく。さらに、今後中島公園周辺地域における新MICE施設建設後の変革も視野に入れ、札幌の観光振興の一翼を担うべく積極的に取り組んでいく足掛かりとする。併せて、やまびこ座についても大規模修繕に伴う7ヶ月間の休館から4月に再オープンする節目を迎える。市民に広くPRする機会とし、地域や市民の人材育成を中心とした文化活動拠点としてさらに強固なものとなるよう、事業を一つひとつ丁寧に実践していく。

また、国際交流事業として欧州公演を実施し、人形劇をとおり、北海道の歴史的文化を他国の人々にも周知する機会とする。

重点目標

地域活動等事業

「夢と笑顔と人が集いあう劇場づくり」

劇場という空間が特別なものではなく、地域に開かれた親しみある場であるよう、子どもから大人まで多くの市民が集い合い、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取り組みを応援し、人や地域の活性化につなげる。

施設運営等事業

①人形劇、児童劇等の裾野を拡げていくための人材育成の取り組み

人材育成を柱に、時代のニーズに合わせ継続的かつ発展的な事業展開を図る。

②札幌の子ども文化の創造と発信による新たな可能性

子ども文化の創造・発信拠点としての中心的役割を担う。

③やまびこ座、こぐま座、中島児童会館との連携による事業の拡充

やまびこ座、こぐま座、中島児童会館という歴史的価値の高い、貴重な3施設による連携を図り、子どものための専門施設として、より効果的な運営を実現する。

④劇場スキルを活かした財源確保と効率的かつ効果的な運営

指定管理費と併せ、公的助成や民間資金の活用による発展的な事業展開を図る。

⑤子どもの文化施設としての社会的役割と使命

全国的にも数少ない子どものための公立文化施設として、文化力による社会的役割を明確にし、未来ある子どもたちの夢と可能性を拡げていく。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

2019 年度	70,000 人	2018 年度	58,044 人(見込)
---------	----------	---------	--------------

②事業プログラム参加者総数

2019 年度	24,000 人	2018 年度	30,639 人(見込)
---------	----------	---------	--------------

③利用者アンケートにおける満足度

2019 年度	85%以上	2018 年度	90%(見込)
---------	-------	---------	---------


【部門目標】

①やまびこ座 年間上演日数 120 日、公演数 200 回以上 (2018 年度見込 61 日・96 回)

こぐま座 年間上演日数 120 日、公演数 200 回以上 (2018 年度見込 136 日・207 回)

②中島児童会館・人形劇場こぐま座資料室『MA・SO・BO』 年間利用者人数

2019 年度	10,000 人以上	2018 年度	6,000 人(見込)
---------	------------	---------	-------------

事業内容	時期・回数
1 青少年活動支援事業 (1) 人材育成事業（一般対象） <ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者の人形劇講座、経験者の人形劇講座 ・ 東区市民劇団育成事業「オニオン座」 ・ 人形浄瑠璃講習会 ・ 義太夫講習会（一般クラス） ・ 人形浄瑠璃体験ワークショップ ・ 腹話術初心者入門講座 ・ 指導育成事業 砂川人形劇創作体験プログラム ・ 舞台スタッフ指導事業 ・ 劇団育成支援事業 ・ 中島児童会館一体連携事業 「こどものまなび塾」「こどもの文化セミナー」 (2) 人材育成事業（子ども対象） <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 27 期 やまびこ座遊劇舎 ・ 第 17 期 劇☆やまびこ座 YOUTH ・ ざ・にんぎょうじょうりゅうユースクラス ・ こぐま座こども人形劇団 ・ 児童会館人形劇クラブ指導 ・ パペットユーススクール ・ こども舞台体験プログラム「ふれアート」 ・ やまびこ座・こぐま座巨大人形劇シリーズ （ピノキオ・テンペスト・冬の野外巨大人形劇） ・ 中島児童会館一体連携事業「あそびの劇場」 	4～7 月 13 回／5～10 月 20 回 5～10 月 25 回 6～12 月 18 回／5～12 月 17 回 6、7 月 3 回／10 月 2 回 5～3 月 20 回 通年／通年 9～2 月 16 回／9～2 月 3 回 5～12 月 33 回 6～1 月 35 回 6～12 月 17 回 5～3 月 40 回／通年 4～1 月 30 回 6、10、12 月 3 回 7～8 月、2 月 10 回 9 月 1 回
2 体験機会創出事業 (1) 地域連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 やまびこ座夏まつり ・ さっぽろアートステージ（シアターゴーラウンド 2019） ・ 中島児童会館協働事業（①かもくま祭 ②資料室企画展示） ・ 元町北小学校アウトリーチ事業 ・ 読み語りの会 (2) 公演事業 <ul style="list-style-type: none"> NEW ・ やまびこ座リフレッシュオープンフェスティバル NEW ・ OKHOTSK 欧州公演 NEW ・ 中島児童会館 70 周年記念特別事業 （Remember70th・中島児童会館 70 周年記念セレモニー他） ・ やまびこ座プロデュース公演 ・ 人形浄瑠璃 2019～さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 25 周年記念公演 ・ プロデュース人形劇『北海道の創作人形劇』公演 ・ 札幌国際人形劇フェスティバル ・ 第 48 回札幌人形劇祭 他 (3) その他事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人形劇スタンプラリー、物品販売事業、事業サポーター制度 ・ 市民ボランティア「やまびこ座たのしませ隊」 ・ こども事業課との連携事業 ・ こどもの劇場通信 他 	8 月 1 回（2 日間） 11、12 月 1 回 ①7 月 1 回（2 日間）②通年 4 回 6～10 月 随時／通年 40 回 4～6 月 14 回 5 月 公演 5 回、ワークショップ 4 回 7 月 週 1 回 11～3 月 30 回 11 月 1 回（2 日間） 8～3 月 13 回 7～3 月 28 回／11 月 1 回（2 日間） 通年 通年 通年／年 6 回発行
3 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ こども劇場の管理運営業務、貸室事業、入場料の徴収 	通年 

若者支援事業課

札幌市若者支援総合センター 札幌市若者活動センター（４施設）

公１ 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他１ その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

札幌の若者支援を牽引する志のもと、困難を抱えた若者だけではなく、次代を担う若者の育成についての相談や情報が「地域から集まる拠点」としての機能を重点的に活性化することにより、対応ノウハウを持った職員が「地域に出向く拠点」としての従来機能と相乗効果を生み、地域におけるプラットフォーム的機能の強化につながることを目指して事業を展開する。併せて、社会状況が複雑・多様化している中、若者を取り巻く社会的課題と向き合っていくため、外部専門機関、団体との連携の強化を図る。

また、財団内他部門との連携として、職員とボランティアを対象としたユースワーカー人材育成プログラムの開発に取り組む。

重点目標

地域活動等事業

「財団内他部門・他団体との連携により新たな社会課題と向き合う」

若者を取り巻く社会的課題について、財団内他部門やNPO・市民の方等との協働により解決へ向け取り組む。そのための人材育成を財団内他部門（こども育成課・こども事業課）と協働して進める。

施設運営等事業

①「若者の気付きと出会いのプラットフォーム」

市民や他団体との協働によって若者を育てていく。さまざまな情報が集まり、必要に応じアクセスできるよう、接点としてのプラットフォーム的機能を強化する。

②「育ち合えるグループ活動の提供」

家庭や学校・職場以外の育ちの場として、体験活動を通じたグループを形成する。多様な価値観に触れ、互いの役割が流動的な「育ち合える環境」を創出する。

③「コンプライアンス経営および業務のスリム化」

職員一人ひとりが公共・公益的活動の実践者であることを自覚し、市民との対話を重視した施設運営および事業推進を行う。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

2019 年度	297,700 人	2018 年度	276,465 人(見込)
---------	-----------	---------	---------------

②事業プログラム参加者総数

2019 年度	43,400 人	2018 年度	41,938 人(見込)
---------	----------	---------	--------------

③利用者アンケートにおける満足度

2019 年度	96%	2018 年度	98.4%(見込)
---------	-----	---------	-----------

【部門目標】

①利用証の発行を受けた若者等登録者数

2019 年度	16,000 人以上	2018 年度	14,613 人(見込)
---------	------------	---------	--------------

②新規に相談を受けた自立支援登録者数

2019 年度	400 人以上	2018 年度	327 人(見込)
---------	---------	---------	-----------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 自立支援事業 ・子ども・若者支援地域協議会の運営 ・相談窓口の設置 ・自立支援プログラム ・社会体験機関創出事業 ・中学卒業者等に対する進路支援事業 ・広報・セミナー等の開催 ・地域若者サポートステーション (2) 交流促進事業 ・ENGINE-LINK 構築 ・ロビーワークの実施 ・交流促進プログラム 他 (3) 社会参加促進事業 ・地域若者サポーターの獲得と協働 ・利用者モニタリング事業 ・地域の社会活動への参加促進 ・学習人材育成講座 ・学習支援ボランティアの養成 ・育成プログラム (①初期体験型 ②提案型 ③プロジェクト型 NEW ④社会意識ボトムアップ型) 他	通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 他団体との協働事業 10 回以上 通年 随時 通年 随時 研修 4 月 2 回程度、 学習会 3 回程度 通年 41 回 通年 随時
2 受託事業 ・地域若者サポートステーション事業 ・白石区複合庁舎まちづくりイベント広場等管理運営事業	通年 通年
3 調査研究事業 ・若者を取り巻く環境の調査 ・テーマを決めた調査・研究 他	通年 随時 通年 3 回
4 施設管理運営事業 ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務 ・若者施設貸室事業、物品貸出等	通年 通年
5 その他の事業 ・キッチンカーの活用 ・若者の住居支援事業 ・学校内ユースワーク事業 ・視察受入と講師派遣 ・インターンシップ・実習生の受入れ 他	通年 随時 通年 通年 12 校 通年 随時 通年



事業方針

外部の企業や団体との協働の成果を、財団内他部門との連携へとつなげ、横断的な事業展開により、当財団の認知度を向上させるとともに地域社会の発展に資する。

社会ニーズをとらえたプログラム開発や検証による財団のノウハウの蓄積を行い、事業効果の最大化を図る。

重点目標

地域活動等事業

- ①財団所有施設である強みを活かし、グループ活動を主体とした時代のニーズに対応するプログラムを提供し、青少年の健全育成を図る。
- ②財団が指定管理している他施設や他部門、関連団体との横断的連携により自主事業の拡充や幅広い分野からの指導事業受託を推進する。
- ③財団が有する滝野自然学園の将来像の検討と、これまでの形態に捉われない「未来ビジョン」を策定し、運営方法の再構築を行う。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

2019 年度	6,700 人	2018 年度	6,520 人(見込)
---------	---------	---------	-------------

②事業プログラム参加者数
(主催事業)

2019 年度	1,900 人	2018 年度	2,110 人(見込)
---------	---------	---------	-------------

(受託事業)

2019 年度	1,400 人	2018 年度	1,856 人(見込)
---------	---------	---------	-------------

③参加者アンケートにおける満足度

2019 年度	92%	2018 年度	92%(見込)
---------	-----	---------	---------

【部門目標】

①財団内利用件数

2019 年度	20 件以上(新規設定)
---------	--------------



事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 自然体験活動事業 【幼児対象事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・たきの森のようちえん 【小学生対象事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・川のがっこう ・たきの森のがっこう ・遊習塾リトルキャンプ ・遊雪塾リトルキャンプ ・わくわくカヌーチャレンジキャンプ（児童会館キャンプ） 【親子等対象事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんと過ごす週末キャンプ ・わくわく親子キャンプ ・おためしキャンプ ・そだちあい DAY 【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進モデル事業 ・課題を抱える青少年を支援する体験活動プログラム 	5～2月 28回 6～9月 3回 5～2月 7回 6～8月 3回 3月 1回 7～8月 4回 7、1月 3回 7～8月 2回 4～5月 1回 5、3月 2回 時期未定 3回 時期回数未定
2 職員派遣事業 <ul style="list-style-type: none"> ・その他の指導業務 	通年 随時
3 団体支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・こども基金事業 	通年
4 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・滝野自然学園プログラム開発 ・滝野自然学園の管理運営、貸室事業等 	通年 通年



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

事業方針

外部の企業や団体との協働の成果を、財団内他部門との連携へとつなげ、横断的な事業展開により、当財団の認知度を向上させるとともに地域社会の発展に資する。

社会ニーズをとらえたプログラム開発や検証による財団のノウハウの蓄積を行い、事業効果の最大化を図る。

重点目標

地域活動等事業

- ①財団内他部門との連携を視野に入れた、企画事業課業務の財団内への周知及び広報を図る。
- ②財団全体の特色が発揮できる、事業受託に向けた積極的な取り組みを行う。
- ③既存広報媒体の更なる有効活用を実施し、財団の認知度向上を図る。

数値目標

【共通目標】

- ①事業プログラム参加者数
(主催事業)

2019 年度	4,100 人	2018 年度	3,497 人(見込)
---------	---------	---------	-------------

- (受託事業)

2019 年度	77,200 人	2018 年度	25,599 人(見込)
---------	----------	---------	--------------

- ②利用者アンケートにおける満足度

2019 年度	90% (新規設定)
---------	------------

【部門目標】

- ①イベント収益総額

2019 年度	8,000 万円	2018 年度	7,371 万円(見込)
---------	----------	---------	--------------

- ②各事業全体における実収益率

2019 年度	35%以上(2,800 万円以上)	2018 年度	約 46%(見込)
---------	-------------------	---------	-----------

- ③財団内他部門連携事業数(新規設定)

2019 年度	4 回以上
---------	-------



事業内容	時期・回数
1 民間企業等から受託したイベント	
(1) 受託事業(受託型イベント事業)(予定)	随時
<ul style="list-style-type: none"> ・さっぽろ雪まつりつどーむ会場制作・運營業務 ・大通西10丁目会場における大雪像制作等業務 他 ・さっぽろ水道フェスタ2019(札幌市水道局) ・青葉町夏祭りステージ企画運營業務(青葉町自治連合会) ・「厚別区子どもまつり」巨大迷路運営・指導業務(札子連厚別支部) ・「SORAこそだてフェスティバル2019」遊びコーナー運營業務 (札幌コンベンションセンター) 他 	
(2) 企画提案事業(公募型プロポーザル方式事業)(予定)	随時
<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の活動の担い手育成事業 ・白石区民協働スペース活用イベント 	
(3) 自主企画事業	随時
<ul style="list-style-type: none"> ・ミニさっぽろ(ミニさっぽろ実行委員会) ・円山動物園との連携事業(共催事業)「ZOO ナイトキャンプ」 ・スポーツキャンプ 	
(4) 活動支援事業	随時
<ul style="list-style-type: none"> ・大通地区にぎわいフェスタ 他 	
(5) 広報事業	
<ul style="list-style-type: none"> ・こども情報誌「あそぼ」の発行 ・こども環境情報誌「エコチル」への事業告知記事掲載 ・職員向け広報「きょうかいナウ」の発行 他 	年6回 年12回 年12回
(6) 調査・研究事業	随時
<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修、外部研修、各種イベント視察 他 	
2 物品貸与等事業	
(1) 活動支援事業	随時
<ul style="list-style-type: none"> ・当財団管理施設及び外部への物品貸出 	



事業方針

札幌市北方自然教育園は、札幌市の野外教育施設として、学校教育における自然体験活動機会の提供を第一義と捉え、農業を中心とした体験学習機会を安定的に提供するとともに、教育的視点を持って学校教育を積極的にサポートする。併せて、多くの市民に利用・活用される施設を目指し、提供プログラムの開発と利用促進につながる広報活動を展開する。また、特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携により、安定的な施設運営のためのノウハウやビジョンの共有を図りながら未来のあるべき姿を共に検討していく。

重点目標

- | | |
|---------|--|
| 地域活動等事業 | ①市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供する。
②地域住民や果樹園等との関係性を深め、白川地区一体となって知名度向上を図る。 |
| 施設運営等事業 | ①小中学校をはじめとした体験学習機会の安定提供及び学習内容の充実化を図る。
②学習指導要領と関連づけた体験学習を提供する。
③SNSを活用した小中学校や市民への情報提供を行う。
④学びの農園（Learning Garden）実施に向けての調査研究を行う。
⑤特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携を強化する。 |

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

2019 年度	11,300 人	2018 年度	11,229 人(見込)
---------	----------	---------	--------------

②事業プログラム参加者総数

2019 年度	1,000 人	2018 年度	989 人(見込)
---------	---------	---------	-----------

③利用者アンケートにおける満足度

2019 年度	92%	2018 年度	90%(見込)
---------	-----	---------	---------

【部門目標】

①小中学校を対象とした農業体験事業の提供（延べ参加校）

2019 年度	64 校	2018 年度	64 校(見込)
---------	------	---------	----------

②市内学校への生物教材配布事業（延べ参加校）

2019 年度	213 校	2018 年度	213 校(見込)
---------	-------	---------	-----------

③市民ボランティアの活動（人数）

2019 年度	127 人	2018 年度	121 人(見込)
---------	-------	---------	-----------


事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 地域活動等事業 <ul style="list-style-type: none"> ・団体指導事業 ・社会的課題解決事業 ・野生動物関連フォーラム 他 (2) 施設運営等事業 <ul style="list-style-type: none"> ①市立幼稚園・認定こども園・学校に対する農業体験の機会提供に関する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・体験農場 ②市立幼稚園・認定こども園・学校に対する生物教材の提供に関する業務 <ul style="list-style-type: none"> ・教材用生物の提供 ③自然観察や採取等の学習機会の提供に関する業務 <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫ふれあい隊 ④自然体験に関する学習機会の提供に関する業務 <ul style="list-style-type: none"> ・北方フルーツ・ファーム ・北方ファーム ・家族でトンボの観察会 ・夏休み家族工作～自然素材編～ ・家族で作る自然素材のクリスマスリース ・家族で作る！新年しめ飾り作り ・家族で札幌の貝化石発掘調査 ⑤自然体験や展示に関する情報の収集および提供に関する業務 ⑥自然体験や展示に関する市民の自主的な活動及び交流の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティア事業 ・教育機関支援事業 ⑦自然体験や展示に関する相談業務 ⑧その他北方自然教育園の設置目的を達成するために必要な業務 <ul style="list-style-type: none"> ・森の池の生き物たちを観察しよう ・教職員研修事業 ・ロビー展示 ・大人の学び舎 ・サクランボ採取体験とジャム作り ・札幌ファームトゥテーブル ・北方スノーシュー野鳥&自然観察 ・ロビーで簡単工作会 ・広報業務 ・調査・研究 他 	通年 随時 10月 1回 1回 5～12月 100校程度 通年飼育 6月配付 1回 小学校夏休業期間 6、10月 4回 5、7、8月 6回 8月 1回 8月 2回 11月 1回 12月 4回 7月 1回 通年 通年 通年 随時 通年 随時 8月 1回 7月 1回 通年 随時 5、2月 2回 7月 2回 9月 1回 1～3月 随時 通年 随時 通年 通年 通年
2 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・北方自然教育園の管理運営 	通年



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針	「野外教育施設としての可能性を最大限に高めるために」 2018 年度に続き、これまで蓄積してきた施設運営と事業ノウハウをもとに野外教育施設としての新たなチャレンジを続けていく。「自然との関わりが人にとって必ずプラスに作用する」という考えを念頭に置き、教育、レクリエーション、環境、子育て、観光、社会的課題の解決、医療など野外活動手法の活用可能性が見込まれる分野との関わりを深めていく。 また、社会動向に注視し、先を見据えたプログラム開発と指導力向上、広報活動の準備を積極的に行っていくとともに、既存の運営方法や事業内容にこだわることなく、地域性を活かした提案型の施設運営を目指していく。			
	地域活動等事業	①体験型観光、地元温泉街と連携した着地型観光と関連性の高い魅力的なプログラムの提案を行う。 ②札幌市内の児童を対象に自然体験活動をととした「学び」と「あそび」の機会を提供する。		
重点目標	施設運営等事業	①特別な支援を要する団体を対象としたスペシャルニーズキャンプの実践 特別な支援を必要とする団体へ自然体験活動のプログラムを提供する。 ②平日及び冬季利用促進を目的とした事業の実施 施設利用の促進や利用者ニーズに応えるべく事業を積極的に展開する。 ③野外教育を手法とした課題を抱える若者の支援事業(他部門連携) 自己肯定感の向上や学力向上につながる体験活動の機会を提供する。 ④貸室利用の促進を目的とした利用手続きの見直し 利便性向上による貸室利用促進を図る。		
数値目標	【共通目標】			
	①利用者総数			
	2019 年度	24,400 人	2018 年度	23,173 人(見込)
	②事業プログラム参加者総数			
	2019 年度	10,900 人	2018 年度	10,695 人(見込)
	③利用者アンケートにおける満足度			
	2019 年度	97%	2018 年度	97.5%(見込)
	【部門目標】			
	①特別な支援を要する団体への支援（実施件数）			
	2019 年度	3 件	2018 年度	3 件(見込)
	②冬季野外活動促進（下期利用率）			
	2019 年度	25%	2018 年度	23.3%（見込）
	①セルフモニタリング調査（実施件数）			
	2019 年度	300 件	2018 年度	200 件(見込)

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 地域活動等事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ようこそ児童会館 ・定山溪でストレッチと森歩き ・定山溪スノーシューツアー NEW・冬季テント泊チャレンジプラン (2) 利用者支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプモニター事業 ・気づきのメッセージ ・森の観察会 ・宿泊活動支援 ・団体指導事業 ・飯ごう・羽釜ご飯体験会 ・キャンプファイヤー ・森の工作会 ・ナイトハイク ・石窯料理体験 ・銀河の会 ・ドラム缶風呂体験 ・スノーアクティビティ ・わくわくラリー ・遊歩道クイズ (3) 地域の文化を伝え振興を図る事業 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌ファーム・トゥ・テーブル ・持込支援事業 (4) 学びの場を提供する事業 <ul style="list-style-type: none"> NEW・みんなの森プロジェクト ・スペシャルニーズキャンプ ・森の図書館 ・森の探検隊 ・ヒグマトランクキット ・昆虫博士キャンプ ・社会的課題解決事業  (5) 新たなライフスタイルの提案を行う事業 <ul style="list-style-type: none"> ・飯ごう炊さんコンテスト ・ヴィレッジ・クリスマス ・樹液体験事業 (6) 野外教育・環境教育に携わる人材を育成する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ ・ボランティアスタッフ育成 (7) 野外での子育て支援を行う事業 <ul style="list-style-type: none"> NEW・親子で冬キャン！！ ・親子で『コソ練』キャンプ ・ようこそファミリーキャンプ ・定山溪森のようちえん (8) その他、施設運営目的を達成するために必要な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバル ・ウィークデイプログラム ・アウトドアクッキング ・広報、プレスリリース ・企画協賛事業 ・公的施設連携事業 ・調査、研究 	通年 10 館 5～9 月 4 回 2 月 3 回 1 月 1 回 通年 随時 通年 随時 通年 随時 5～12 月／通年 随時 4、1～3 月 通年 7～9 月／12～3 月 通年／5～10 月 9 月 1 回 通年 2 回 8、9 月 2 回 通年 随時 6～10 月 7～9 月 3 回 通年 7、8、10、12 月 4 回 通年 随時 7 月 1 回 通年 随時 3～4 月 2 回 通年 随時 2 月 1 回 5、6、12 月 3 回 5、6、9、10 月 4 回 6、7、9、10、2 月 5 回 1 月 1 回 9～12 月 4 回 6～12 月 10 回 通年 通年 通年
2 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・定山溪自然の村管理業務、貸室事業、物品貸出等 	通年

公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

「ONLY ONE を目指して→+ONE（プラスワン）を！」

指定管理期間の 2 年目を迎え、私たちの予想を上回るスピードで目まぐるしく変化する社会情勢（少子化の進行・働き方改革等に伴う変化）に対応するため、指定管理業務計画書の内容を常に見直し、業務の検証・評価を行うことにより課題認識を改め、優先順位を持って施設管理及び事業実施にあたる。そのため、施設利用者へのサービス向上を最優先に推進するほか、各種活動プログラムの研究・開発・提供による質的向上にスピード感をもって取り組む。

併せて、施設が持つ 3 つの機能（自然体験の場、自然環境における集団生活の場、野外活動研修の場）を最大限に発揮して運営にあたり、地域・関係機関とのつながりを一層強化することで社会的信用を獲得していく。

重点目標

地域活動等事業

パッケージドプログラムの開発を行い、団体への一部提供を行う。

施設運営等事業

- ①新たな視点を取り入れた野外学習プログラムの普及に寄与する。
- ②利用者向けプログラムの質的向上を見据えた事業展開を行う。
- ③関係機関との連携強化を図る。
- ④利用促進計画を推進する。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

2019 年度	74,000 人	2018 年度	73,592 人(見込)
---------	----------	---------	--------------

②事業プログラム参加者総数

2019 年度	11,400 人	2018 年度	11,234 人(見込)
---------	----------	---------	--------------

③利用者アンケートにおける満足度

2019 年度	86%	2018 年度	85%(見込)
---------	-----	---------	---------

【部門目標】

①閑散期の一般利用団体数

2019 年度	60 団体	2018 年度	55 団体(見込)
---------	-------	---------	-----------



事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 青少年キャンプ事業 NEW ・学校教育と連動した野外教育プログラム普及・開発事業（仮） ・トライキャンプ ・はじめてのスキーキャンプ ・防災サバイバルキャンプ ・青少年の抱える課題解決に向けた事業 (2) 生涯学習事業 NEW ・公園と連携した自然体験プログラム（仮） NEW ・パッケージドプログラム出張事業 ・軟石クラフト体験会 ・地域交流事業 (3) 人材育成事業 ・指導者ワークショップ ・ボランティアスタッフフォローアップ研修会 ・キャンプで学ぼうキャンプ ・インターンシップ受入れ事業 (4) 団体支援事業 ① 活動支援事業 ・合同説明会 ・合同下見会 ・出前授業 ② 利用促進事業 NEW ・30周年記念事業 ・情報発信事業	通年 7～8月 5泊6日 1月 2泊3日 6、9、2月 3回 9、10月 3回 通年 随時 通年 6月 1回 通年 1回 通年 4回 通年 2回程度 6、10、1月 3回 通年 4～11月 10回 5、6、8、1月 5回 通年 110校程度 9月 1回 通年 随時
2 施設管理運営事業 ・青少年山の家管理業務 ・青少年山の家貸室事業、物品貸出等	通年 通年



公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

「まちの活力を高める活動の拠点～多様性に富んだ市民との共創」

社会的課題の解決につながる事業の共創のため、ネットワークの活性化を図り、市民や市民活動団体の情報収集と発信の拠点として情報の収集・提供を行うことにより、新しい価値観を発見する機会を提供する。併せて多様な分野で活動する組織が互いの課題を把握し、協働により解決につなげられるよう支援を行う。

また、複合施設としての利点を生かし、管理業務や資金管理の一元化、市民対応業務の共通化を図り、サービス水準の維持向上に努める。

重点目標

等事業
地域活動

男女共同参画や市民活動等の促進に関する活動の更なる発展のため、国や関係機関との連携を念頭に置いた取組みを実施する。

施設運営等事業

男女共同参画センター事業

- ・ジェンダー平等達成に向けた取組みを実施する。
- ・企業や組織における女性の活躍推進に向けた支援機会を提供する。

市民活動サポートセンター事業

- ・市民活動の希望者層や潜在層への啓発やきっかけづくりを支援する。
- ・想いを共有することができる機会や場の提供を図る。

環境プラザ事業

- ・さまざまな団体との連携による展示コーナーの活用を行う。
- ・市内の環境保全の波及効果を狙った指導者向け研修を実施する。

情報センター事業

- ・SDGs 関連事業を展開する。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

2019年度	641,000人	2018年度	611,000人(見込)
--------	----------	--------	--------------

②事業プログラム参加者総数



2019年度	70,000人	2018年度	69,000人(見込)
--------	---------	--------	-------------

③利用者アンケートにおける満足度

2019年度	86%	2018年度	80%(見込)
--------	-----	--------	---------

【部門目標】

- ①男女共同参画センター管理部門：有料貸室利用率 **86%** (2018年度見込 84%)
- ②市民活動サポートセンター事業：市民活動相談件数 **年間600件** (2018年度見込 488件)
- ③環境プラザ事業：環境活動の機会提供 **55回** (2018年度見込 55回)
- ④情報センター事業：SDGs の意識啓発につながる取組み **12回** (2018年度見込 11回)

事業内容	時期・回数
1 市民活動振興事業	
(1) 活動支援事業	
〔男女共同参画センター事業〕	
・北海道女性起業家支援ネットワーク事業	5～1月
・働く女性のためのキャリア支援事業「コワーキングスペース」	通年
・女性の多様な働き方窓口総合受付業務「ここシェルジュ SAPPORO」	通年 随時
・ジェンダーイシューに関わる事業	通年 4回程度
・男女共同参画団体支援事業	通年 随時
・ワーク・ライフ支援事業	通年 37回
・女性のための総合相談	通年 48回
・女性のための法律相談	通年 24回程度
・若年層のための相談	通年 24回
・男性のためのワーク・ライフ相談	通年 2回
・性的マイノリティ電話相談業務	通年 50回
・企業等との連携	通年 3回程度
・国際交流支援事業	通年 随時
〔市民活動サポートセンター事業〕	
・スタートアップ支援事業	①5、10月 2回
(①しみサポテラス／②NPO 基礎講座／③NPO 法人設立講座／	②5、11月 2回
④子ども・若者の市民活動促進サポート)	③6、11月 2回
	④4～9月 1回
・組織基盤強化事業 NPO マネジメント講座	7、9、10、11、1月 5回
・市民活動団体支援「しみサポ・マルシェ」	7、2月 2回
・マチなか×NPO	12月 1回
 ・NPO ワークショップ	通年 3回
・市民活動相談	通年 随時
・NPO 専門相談	通年 15回
・しみサポ事業サポーター	5～3月 11回
〔環境プラザ事業〕	
・こどもエコクラブ交流会	6～2月 2回
・こどもエコクラブ支援事業	通年 5件程度
・環境教育リーダー派遣制度	通年 85件程度
・環境保全アドバイザー派遣制度	通年 40件
・環境活動団体の支援 他	通年 10件程度
<人材育成事業>	
 ・職員プロジェクト	通年
・子ども・若者のためのエンパワメント事業	通年 4回程度
・寄付月間キャンペーン事業	12月 1回
・環境教育リーダー全体会	6月 1回
・環境保全アドバイザー全体会	5月 1回
・ESD 促進集会事業	6～2月 1回
・指導者向け事業 他	通年 3回

事業内容	時期・回数
<地域連携事業> <ul style="list-style-type: none"> ・北8条通アマとホップのフラワーロード事業 ・環境関連施設連携事業 ・月イチ交流サロン「しみサポつながるカフェ」 	5～3月 1回程度 10月 1回 通年 10回
(2) 職員派遣事業 <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画ワークショップ事業 ・児童・生徒への学習対応業務 	通年 4回程度 通年 随時
(3) 情報発信事業 <ul style="list-style-type: none"> NEW・情報コンシェルジュ業務 NEW・サロン事業 ・男女共同参画情報誌「りぷるさっぽろ」の発行 ・ホームページの管理等インターネット活用事業 ・オフィシャルサイトの管理 ・プッシュ型広報(フェイスブックやメールマガジン等) ・市民活動情報誌「みんなのしみサポ」の発行 ・掲示コーナーの整備 ・講師派遣パンフレット・ポスター作成業務 ・図書整理・管理・貸出業務 ・地下歩行空間「市民まちづくり活動情報コーナー」広報事業 ・学習スペース@ジョーセ 他 	通年 通年 適宜 通年 2回 通年 通年 通年 6、10、2月 3回 通年 2月 1回 通年 通年 通年 適宜
2 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・エルプラザ公共4施設の管理業務 ・エルプラザ公共4施設の貸室事業、物品貸出等 	通年 通年



VI 施設一覧

(1) 自主運営施設

	施設名	所在地	施設内容
1	滝野自然学園	南区滝野 106 番地	宿泊室、食堂／集会室、学習室 野外炊事場等

(2) 指定管理施設

	施設名	所在地	施設内容
1	児童会館	札幌市内 107 か所	体育室、プレイルーム等
2	こども人形劇場こぐま座	中央区中島公園 1-1	ホール
3	こどもの劇場やまびこ座	東区北 27 条東 15 丁目	ホール、工作室、研修室、 会議室
4	若者支援総合センター	中央区南 1 条東 2 丁目	活動室等
5	アカシア若者活動センター	東区北 22 条東 1 丁目	活動室、和室、音楽室 体育室等
6	ポプラ若者活動センター	白石区東札幌 2 条 6 丁目	活動室等
7	豊平若者活動センター	豊平区豊平 8 条 11 丁目	活動室、和室、体育室等
8	宮の沢若者活動センター	西区宮の沢 1 条 1 丁目	活動室、音楽スタジオ、 体育室等
9	北方自然教育園	南区白川 1814	展示室、工作室、多目的室
10	定山溪自然の村	南区定山溪	コテージ、テントサイト 野外炊事棟
11	青少年山の家	南区滝野 247	宿泊室、研修室、多目的ホール 野外炊事場等
12	男女共同参画センター	北区北 8 条西 3 丁目	研修室、会議室、料理実習室 託児室、ホール等
13	市民活動サポートセンター	同上	事務ブース、会議コーナー等
14	環境プラザ	同上	環境研修室
15	消費者センター	同上	相談窓口

(3) 受託施設

	施設名	所在地	施設内容
1	ミニ児童会館	札幌市内 93 か所	小学校内併設

VII 機構図

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 機構図

